令　和　８　年　度　７　月　２　３　日
第Ⅰ期第4回中野区在宅療養推進協議会　資料2

テーマ1：

「在宅医療・介護連携体制の構築について」

今期の検討目的

在宅医療・介護連携体制の構築に向けた

実態調査

これまでの議論を踏まえた調査テーマ

① 24時間往診体制

24時間往診体制を支える連携体制の実態

② 入退院時連携

退院支援や情報共有は円滑に行われているか

③ ACP・意思決定支援

本人の意思やACPは多職種で共有できているか

④ 日常療養支援

医療と介護は日常的に連携できているか

グループでの検討について

在宅療養を支える上で

- 医療と介護の連携で困っていること
- その原因や背景として考えられること
- 実態調査が必要と思われること

※<u>医療と介護の連携</u>

の視点から検討

グループ検討スケジュール

【20:05～20:35】

A-1とA-2のグループに分かれ検討

【20:35～20:45】

Aグループ全体で意見の共有

【20:45～20:55】

全体まとめ

テーマ２：

「ケアラー支援について」

今期の目標

- ケアラー支援条例の制定

- ケアラー支援に関する施策の検討

ケアラー支援条例の考え方

理念条例として整理

・方向性を示すことが目的

・施策は今後段階的に具体化

一般的なケアラー支援条例の構成

（前文）

①目的

②定義（対象）

③基本理念

④責務

⑤施策の方向性

⑥推進体制

本日検討する内容

理念

- 条例を制定する背景や課題認識、
  目指す将来像を示すもの

- 条例全体の方向性を決める指針となる

区が出発点として考えていること

- 地域包括ケアシステムの推進
- 地域共生社会の実現
- 誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくり
- 孤独孤立を防ぐ取組
- 多様な主体による支えあい　　など

これまでいただいたご意見

・ケアラーは多様（ヤング・就労世代・高齢・ダブルケア）

・ミドル世代が制度の狭間にいる

・負担の深刻化（孤立・疲弊・離職など）

・相談・支援につながりにくい／自覚しにくい

・介護負担軽減が中心の支援

⇒ ケアラーの生活・就労・学業などのQOL向上への視点

・介護終了後の支援

・早期発見・早期支援の仕組みが必要

・医療・学校・企業・地域の連携

・地域の相互理解、支えあい

・交流・相談の拠点の必要性

グループ検討

・大切にしたい視点

・不足している視点

・中野区らしい特徴

をキーワードで表してください。

（視点）

■ケアラー支援条例を通じて、どのようなケアラー支援を実現したいか

■中野区はどのような地域を目指すべきか

EX）孤立させない、自分らしい人生、地域で支える、多様な状況に応じた支援　等

タイムスケジュール（Bグループ）

【20:05～20:15】

付箋に書き出し

【20:15～20:45】

Bグループでまとめ

【20:45～20:55】

全体共有